青森大学だより
2023年（令和5年）
特別号
発行
青森大学
広報室
〒030-0943
青森県青森市
幸畑2-3-1
TEL 017-738-2001
FAX 017-738-0143
青森大学 検索
青森大学公式サイト

都心の利を活かした学び

東京キャンパス

ITイベントにも参加

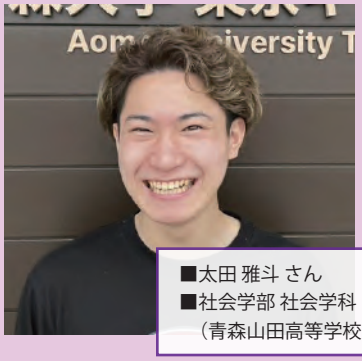
最先端テクノロジーの見本市に参加した

青森大学は、青森市に加え、東京都江戸川区とむつ市にもキャンパスを展開している。学生はキャンパス間を自由に移動し、多彩な講義を受けることが可能だ。東京キャンパスには、総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部が設置され、首都東京の立地を活かした学び、世界との繋がりを実感できる。今年は初めて卒業生を送り出し、江戸川区の企業や卒業生が経営する会社に就職した。

ここではインターネットやテレビ等で目にするグローバル企業のオフィスを見学したり最先端のイベントに参加することができる。昨年10月には、東京キャンパスの学生らが幕張メッセで開かれた国内最大のIT／AIテクノロジーの見本市を訪れた。学生らは「視て」「聴いて」「触って」最先端のテクノロジーを体験した。

学外演習（ゼミ）では長野県泰阜村にあるNPO法人グリーンウッド自然体験教育センターで活動、山村留学制度を利用している子どもたちと交流を深めた。

学生の声


■太田 雅斗 さん
■社会学部 社会学科1年
（青森山田高等学校卒）

―東京での生活が始まって、3ヶ月です。感想を教えてください。

「初めて外国人（東京キャンパス留学生）の友達ができました。アルバイト先では同世代の人たちと友達になり、バイト先のお客さんたちと仲良くなったりと、新しい出会いが可能性を無限に広げていると感じています（笑）。キャンパスでは、留学生から中国語や韓国語を教えてもらったり、一緒に街へ遊びに行ったりととても楽しいです。でも誘惑が多いです…ついつい食べ過ぎてしまいます…」

―今後の予定や希望はありますか。

「これを機会に、第二言語第三言語の習得を目指したいです。もっと色んなことに挑戦して、自分自身の知見を広げたいです。でも、青森にいる彼女との遠距離がつらいです（泣）。」

来春から東京キャンパスの職員に

社会学部4年 中居 彩佳さん

八戸東高校から東京キャンパスへ入学した中居彩佳さん（右）
青森キャンパスでも留学生との交流を楽しんでいる

東京生活の中で、留学生に日本語を教えながら日本語教育の問題点や面白さに気付いていきました。「アヤカ教え方上手いかも」と言われるうちに、自分も日本語教員になりたいと思うようになりました。

3年次からは、青森で講義を受けています。東京キャンパスよりサークルやゼミの数が多いです。また、教職員の方々から声を掛けてもらい地域やむつ市のイベントに携わっています。現在は、来年度大学で働くため研修を兼ねたアルバイトをやっています。ゼミ活動や日本語教員資格の取得、卒業論文etcとやることがいっぱいですが充実しています。

青森大学教職員の一員となったら、今よりもっと「学生が輝く大学」の一助になれるよう頑張りたいと思います。

むつキャンパス

環境美化や高校でのSNS講習会
課外活動で地域と交流

むつキャンパスは昨年4月の開設以来2度目の春を迎えた。今年度の新入生は12名。4月から高大連携事業や地域清掃、植栽活動等の課外活動に取り組んでいる。

年度初めは田名部高等学校と大間高等学校の2校で、大学生が講師役となり、SNS講習会「考えよう！スマートフォン・SNSの使い方」を開催した。楽しさや面白さ、危険性についてグループごとにディスカッションを行った。SNSトラブルの実際の事例を参考にし、参加した高校生からは、「一人で悩まず相談することが大事」「SNSの特性を理解して利用していきたい」などの意見が出た。

田名部高校で実施されたSNS講習会の様子

「大畑桜ロード国道279号ゴミ拾い清掃活動」の様子

また大学生らは、むつ青年会議所や下北ジオパークサポーターと「大畑桜ロード国道279号ゴミ拾い清掃活動」、金谷みちのく地区会とむつ市花のまちづくり実行委員会と「植栽活動」に参加した。

これらの活動はキャンパスのあるむつ市のことを知る良い機会となった。

学生の声

■小向 瑠花 さん
■社会学部 社会学科ｺﾐｭﾆﾃｨ創生ｺｰｽ2年
（青森県立大湊高等学校卒）

―むつキャンパス一期生ですね。1年を振返り、感想を教えてください。

「一期生しかいなかったむつキャンパスで、自分が思い描くキャンパスライフは送れるのか、期待も不安もありました。でも教授や講師の先生方、学外活動で出会う地域の方々と活動する中で、少しずつ自分の視野が拡がっていくのを実感できた1年でした。今は後輩もできて、新たな気持ちで活動をしています。」

―今後の予定や希望はありますか。

「まだサークルが少ないのでサークルを設立したいです。資格の取得にも挑戦しようと考えています。あとは、青森キャンパスの学生と交流がしたいです。これが1番ですね。青森では青森市の魅力をいっぱい教えてほしいし、むつ市に来たら私が沢山教えてあげます。」

むつ市の生産者訪問

シンガポール国立大学からの短期留学生が5月、むつキャンパスのあるむつ市をはじめ青森県内各地を訪れた。

県内の大学生らとの交流を通して、地域の文化や価値観への理解を深めた。むつ市では青森大学の学生とともに市内の生産者らを訪問した。学生らはシンガポールマーケットでの市特産品の競争力や認知度の向上に向けた販売戦略を検討、地域の産業の高度化を図るための方策を探った。

3週間に渡った交流事業は、歓迎レセプションから始まり、陸奥湾イルカ体験やジオパーク見学、各所で地元関係者から現状を聞いた。青森とシンガポールをどのように繋いでいくのか、議論が頻繁に行われた。最終日は、シンガポールのシンボル「マーライオン」ねぶたへの色付け体験を行った。

シンガポール国立大学短期留学生と交流

「マーライオン」ねぶたの色付け体験